届け 世界の果てまでも

令和３年　３月１９日
No．７３
文責　校長　飯久保一男

祝 卒業　「君らしくあれ」

※今号の配付は６年生のみで，１～５年生の家庭には配付していません。ホームページでの公開になります。

６年生７５人は，６年間という長い時間を小学校で過ごし，大きく成長しました。私は今年度だけの付き合いでしたが，「カッコイー」姿，「６年生らしい」姿を何度も見せてもらいました。４月に赴任した私の６年生との出会いは，他の学年はまだ登校しない４月３日でした。６年生は入学式の準備のために登校したのです。

…その後，臨時休業が延期になり，入学式も延期をし，もう一度，入学式の準備をすることになってしまいましたが。

その４月３日，入学式準備に集合した６年生に私から話をさせてもらいました。そのときの６年生の第一印象は**「小笠原小の６年生は聞く態度が『カッコイー』なぁ。『６年生らしい』ぞ」**でした。

いくつもの小学校に勤務してきた経験上，小学校にはその学校の６年生がつくる雰囲気というものがあると思っています。「伝統」ともいえますが，６年生がその伝統に乗っかっているだけでは，そういう雰囲気は生まれません。前年までの６年生たちがつくってきた伝統にさらにプラスされるものがあるときに，その年の学校の雰囲気が生まれてくると思っています。

そんなに特別なことをしなくてもいいのです。あいさつをする，返事をする，真剣に掃除をする，時間を守る，静かにするべきときに静かにする，そして，下級生を大切にする…など，下級生の見本となるべき「当たり前のこと」＝「カッコイー」ことがしっかりできることが，まずその学校の雰囲気をつくります。

そしてその上に，児童会の取り組みでの「カッコイー」姿・行事などで見せる「カッコイー」姿などがあると，下級生が憧れる６年生となっていくものです。

そういう面では，コロナ禍となってしまった今年は，１年生と手をつなぐこともままならず，下級生と一緒に遊ぶこともはばかられる状況となってしまい，６年生にとっては，不完全燃焼の年になってしまったかもしれません。しかし，私はそうは思っていません。

今年度「制限のある中での最大限」という言い方を何度かしてきました。しかし，考えてみれば「コロナ前」であっても同じことがいえたのです。「コロナ前」でも内容や時間の制限はありました。小学生を遅くまで残して取り組ませるわけにはいきません。小学生が自分たちの力で取り組み，活動をし，何かを成し遂げるといっても限界があります。子どもたちのアイディアは大切にしたいと思いますし，子どもたちの発想から生まれた新しい取り組みもありますが，経験の少ない小学生には，それまでの経験しかありませんので，新しいものを生み出すことは，なかなか難しいことなのです。保護者の皆さんの力，地域の皆さんの力，そして，教職員の支援がなければできなかったことがたくさんあります。

つまり「コロナ前」の６年生であっても

- ■　その取り組み内容では，今年の状況（学校体制やメンバーなど）ではできない
- ■　取り組み始めたが，（時間的に or 内容のレベルにより）無理なので方向転換（下方修正）をした
- ■　はじめに考えていためざすレベルまで達しなかった

ということはたくさんあったのです。では，今年の６年生はどうだったのでしょう？

私は十分にがんばってきたと思います。例年以上に制限が厳しく，運動会・修学旅行，そして卒業式など，縮小しなければならないものもいくつもありました。しかし，その中で**「今年の『６年生らしく』取り組めたのなら，これまでの６年生と同じ価値なのではないか」**と思うのです。逆に**「コロナ禍で様々な制限のある年に『自分たちらしく』工夫して取り組んだ６年生」**として，歴史に残る６年生になったと思っています。

１２月に６年生の修学旅行に付き合わせてもらいました。２泊の予定を縮小し，１泊になった修学旅行でしたが，小笠原地区とつながりの深い鎌倉の自主見学をやり切るなど，十分に目的を果たせたと思っています。

陸上記録会も豊小との２校だけの縮小した記録会になりましたが，練習の取り組みは，例年の６年生と遜色ないものができていました。

そして，児童会活動の様々な取り組みです。児童会本部の提案は，コロナ禍でも十分に成果の出るものでしたし，それを受けた６年生が中心になった取り組みは，これまでの児童会と同等のもの，あるいは，凌ぐものがあったのではないかと思います。全校で集まって行う活動ができないので，児童会の活動にもたくさんの制限がありましたが，色別や縦割り班に分かれ，密にならない活動や，放送をうまく使っての活動など，とても工夫されていたと思います。

小集団で「たてわり遊び」や「ゲーム集会」などに取り組んだほか，放送を使っての「まざりっこレク」など，制限のある中での最大限の工夫がされたものだったと思います。「ペアであいさつ活動」や「ありがとうボックス」の取り組みなどもとても工夫されていました。

３学期のまとめの「児童総会」は，代表委員会もって児童総会に充てたという学校が多かったようですが，本校の児童総会は，児童会本部の工夫によって，放送を使って，３～６年生全員が，同じ時間に参加し，同じ時間に考える児童総会を行いました。

保護者の皆さんもそうだと思いますが，子どもたちも，私たち教職員でさえも，どうしても今年の活動を昨年やその前の年などの活動と比較してしまいます。もちろん，そういう比較によって今年はここが成長した，ここは改善しなければならないなどと総括をし，次の計画につなげるが常ですが，今年の場合，それが当てはまらないことのほうが多くありました。昨年と比べて「物足りない」という比較ではいけないと思って今年の活動を考えてきました。コロナ禍であっても「何ができ」「何をめざすのか」を考え取り組んできました。

その中で６年生は**「６年生らしさ」**を発揮してがんばってきたのですから，物足りないのではなく，制限のある中で，よく工夫をして**「自分たちらしく」**がんばったといえるのです。

卒業式での学校長の「はなむけの言葉」（卒業式式辞）の一部を掲載します。

私からの最後の授業として，卒業生の皆さんに，「**自分らしさ**」とはどういうことかという話をしたいと思います。

私は，「自分らしさ」を求めていくこととは，「自分を見つめること」「自分にできることは何かを考えること」「自分の得意なところを生かすこと」そして，「自分の苦手な部分や嫌な部分から逃げないこと」だと考えています。

ここで勘違いをしてはいけないことがあります。自分の好きなことを自分のやりたいようにやることが，自分らしさではないということです。当然，嫌だからやらないなどということは，自分らしさではありません。世の中には，自分のやりたいことをやるのが，自分らしく生きることだと勘違いしている人もいますが，私は，たとえ，気の進まない仕事でも，押し付けられたことだとしても，その中で，自分なりに，自分のやり方でやり通すこと，心を込めてやりとげることが，「自分らしさ」ということだと思っています。

特に授業や学習をするときは「自分らしさ」が発揮できるときです。問題に対して自分の考えをもつことをはじめ，ノートに学習内容をまとめるとき，人の話を聞くとき…，これらに「自分らしさ」を求めてほしいと思います。掃除をするときにも，給食の準備をするときでさえも「自分らしさ」を出すことができます。これらは「こだわり」と言い換えることもできます。

また「自分らしさ」を追い求めていくと，ときには，自分だけ周りと違って，一人になってしまうことや孤立してしまうこともあります。それは，皆さんにとって，恥ずかしいこと，みっともないこと，さびしいこと，恐ろしいことと思うかもしれません。しかしそれで「自分らしさ」をなくすくらいなら，私は一人ぼっちになったとしても，堂々と「自分らしく」いてほしいと思っています。一人一人が違う人間なのですから，周りと違うことを恐れる必要はありません。一人一人が違うからいいのです。

これらのことを，私が尊敬する，教育者，上田薫先生の言葉を使って表現すると，こうなります。

「小笠原小の卒業生よ，つねに君らしくあれ。ひとりぼっちにたじろがず。」

たった一人でも，「自分らしく」自分の信じる道を進んでいく姿は「カッコイー」と思います。今年は，１学期の始業式から「カッコイー」とはどういうことかという話を何回かさせてもらいました。卒業生の皆さんの「カッコイー」姿は，何回も見せてもらいました。さりげなく下級生にやさしく接している姿，まじめに物事に取り組む姿など，特別な取り組みだけでなく，毎日の地道な姿を私は「カッコイー」と感じていました。

皆さんは，コロナ禍であってもがんばった，小笠原小学校の歴史に残る卒業生です。

これからも，かっこよく，そして，「君らしく」「自分らしく」輝いていってください。

６年生にとって，小笠原小学校での６年生の年は今年だけです。繰り返すことはできない大切な１年でした。もし，コロナ禍でなかったら…，と考えないことはありませんが，その大切な１年を，私たち小笠原小学校教職員も大切にしてきました。６年生の子どもたち，そして保護者の皆さんにとって，この１年間が同じく貴重で，大切な１年となっていただけることを願ってやみません。

６年生の皆さん，卒業おめでとう。私は，今年小笠原小に赴任し，皆さんに出会えたこと，皆さんの小学校での貴重な最後の１年をともに過ごせたことに感謝しています。

相田みつを
…詩人・書家。平易な詩を独特の書体で書いた作品で知られる。「書の詩人」「いのちの詩人」とも称される。

小笠原小学校校長を仰せつかり，私なりに取り組んできました。
校長としてまだまだと思いますが，私のことを知っている人からすると，
「お前らしいなぁ」と言われるだろういくつかの仕事はできたと思っています。
この通信も，校長として「自分らしく」あるための仕事であったと思っています。